

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

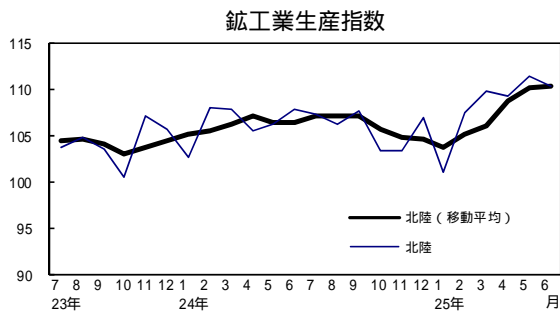
前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年5月)	今回(平成25年8月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	緩やかに回復しつつある	
鉱工業生産	持ち直し	緩やかに増加	
個人消費	持ち直し	持ち直しの動きに一服感	
雇用情勢	改善の動き	着実に改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

4～6月期には、一般機械は、繊維機械の需要が回復していること等から増加した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向け電子部品が減少したこと等から減少した。化学は、医薬品が増加したこと等から増加した。金属製品は、建設用金属製品が好調であったこと等から増加した。繊維は、高付加価値繊維が引き続き好調だったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

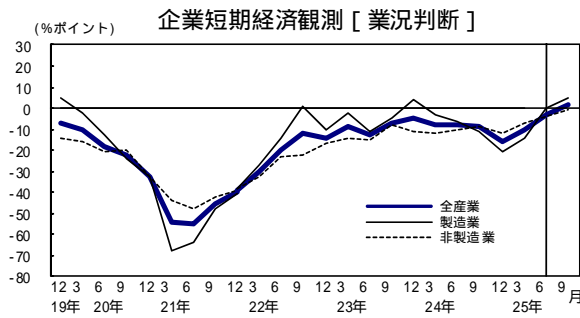
	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
一般機械	16.2	1.1	17.0	8.4	2.3	6.7
電子部品・デバイス	15.8	0.1	0.3	5.0	3.9	3.7
化学	14.5	0.8	3.3	3.6	1.9	5.6
金属製品	9.2	3.4	4.7	2.0	0.5	3.4
繊維	8.5	0.7	4.1	0.5	3.3	3.1
鉱工業	100.0	1.5	4.0	0.5	1.9	0.9

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 太線は後方3か月移動平均。

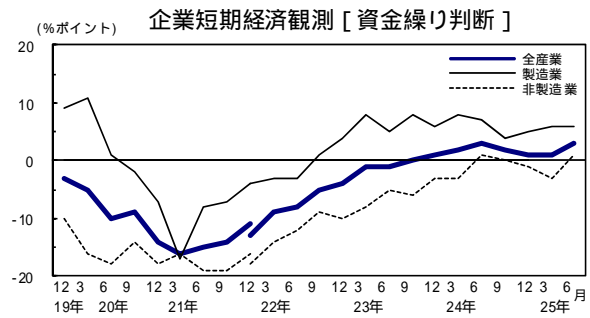
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4～6月期、6月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

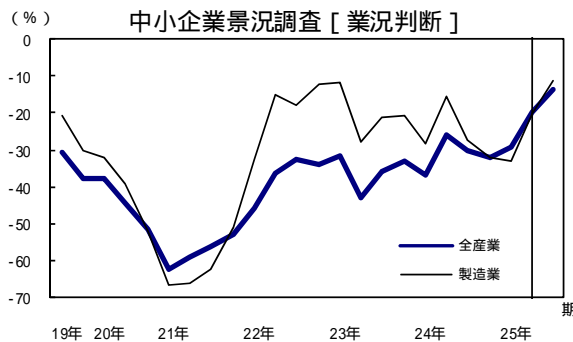
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

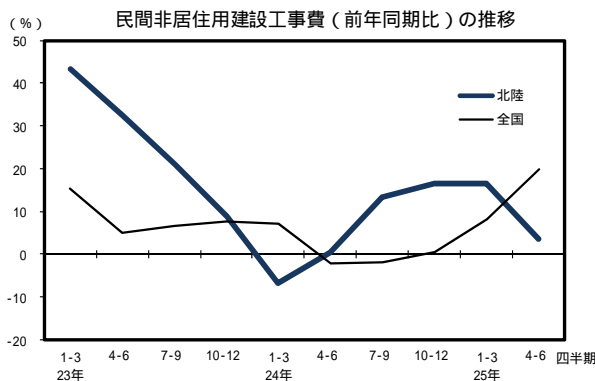


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「非衣料分野の自動車関係においては受注量が非常に増えてきており、また、衣料分野については円安の影響により輸入による受注が増加している(繊維工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度計画
全産業	9.9(0.2)	1.7(1.1)
製造業	5.6(3.2)	4.6(0.1)
非製造業	24.6(11.7)	20.1(4.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.4%減、5月は同0.0%減、6月は同0.7%減となった。

大型小売店販売額

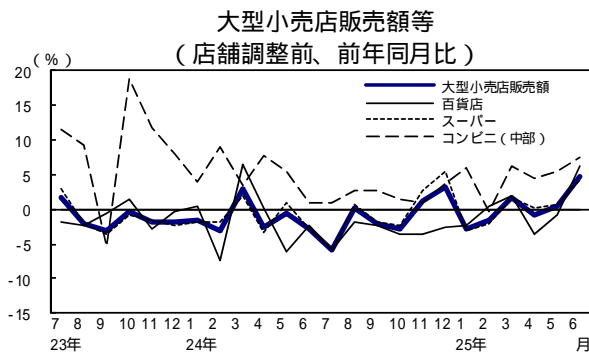
百貨店は、4月は、中下旬以降の気温が前年に比べて低かったこともあり、春物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。5月は、上旬まで気温が低かったこともあり、季節商材が振るわなかったこと等により前年を下回った。6月は、暑い日が多かったこともあり、夏物衣料等の季節商材が好調だったこと等から前年を上回った。

スーパーは、気温が上昇したこともあり、アイスなどの涼味商材が好調だったこと等により、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、49.6となり前月より4.5ポイント低下した。

「6月からのセールが7月前半で一服したことで、気温の暑い日が続いていることにより、来客数が減少している (衣料品専門店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

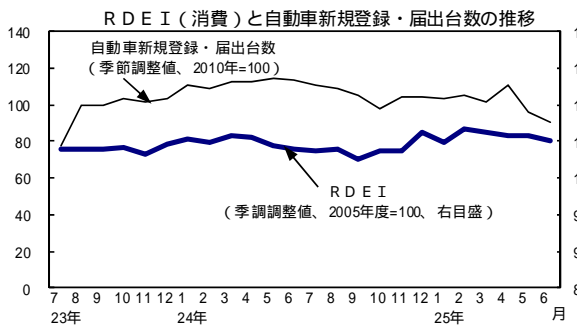


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.3	0.4	0.0	0.7
大型小売店 (*2)	1.5	0.7	0.5	4.7
百貨店 (*2)	0.6	3.6	0.8	6.2
スーパー (*2)	1.8	0.2	0.8	4.3
コンビニ (*2)	5.9	4.6	5.6	7.6
乗用車 (*3)	12.5	1.6	14.1	18.8
(季節調整値) (*3)	4.0	9.2	13.0	5.9

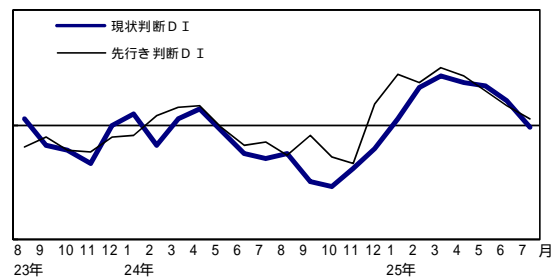
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは中部

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



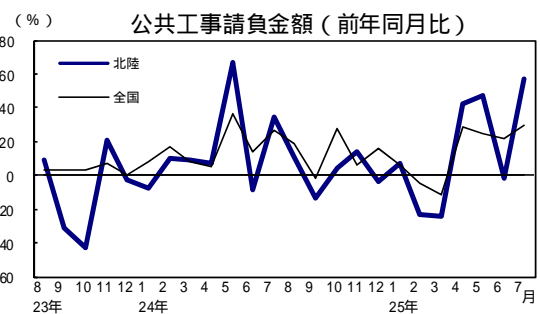
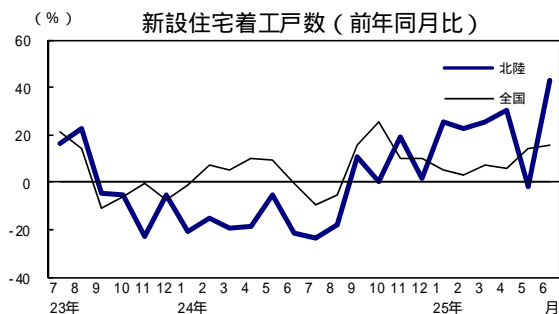
景気ウォッチャー調査 (家計動向関連)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

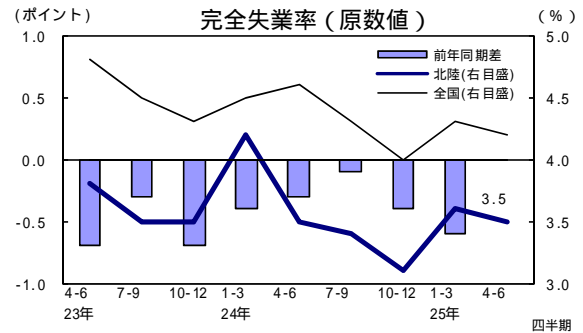
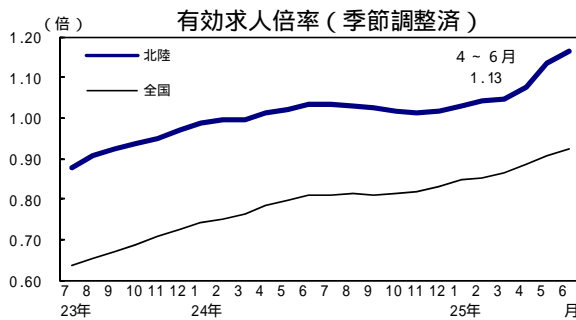


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]

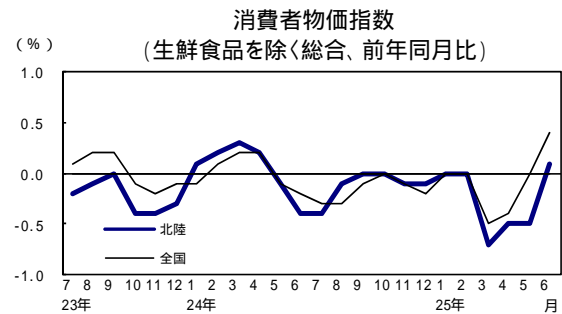
「求職者が望んでいる求人が増加しているかは疑問に思っているが、新規求人の増加が続いており、3か月前の状況に比べてやや良くなっている(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	82	103	81	81	31
(前年比)	13.9	47.1	6.9	3.8	3.1
負債総額	397	1,145	176	160	56
(前年比)	97.4	381.8	4.2	12.0	29.7



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・受注ペースは細ってきているが、新型車効果が続いている模様であり、エコカー補助金のあった前年同月と変わらない状況で推移している(乗用車販売店)

<先行き>

・円安によるコスト負担、特に燃料費が高騰していることによるコスト増により、なかなか利益が出ない状態が良くなるとは思えない(輸送業)

